

授業アンケート **FURIKA**
学生用マニュアル -フィードバックの活用-



Fukuoka University self-Reflection Index of Knowledge, Abilities and Attitudes

2020 年度



Contents

第1章 フィードバックを確認してみよう	1
1 フィードバック情報の取り扱いについて	1
2 フィードバック情報の閲覧方法	1
3 各メニューについて（「科目別の情報」と「自分の特性」）	2
第2章 フィードバックを活用してみよう	3
1 フィードバックが返ってくるよ	3
2 棒グラフをどう見る？（「自分の特性」-全体との比較）	4
3 DPって何だろう？（「自分の特性」-ポリシー）	5
4 DPグラフの読み方（「自分の特性」-DPへの到達度）	8
5 自己評価はしっかりと！	10
6 T 図って何だろう？（「科目別の情報」「自分の特徴」-成績との関係）	12
7 「学んだこと」から学ぶ（「科目別の情報」-学んだこと）	13

第1章 フィードバックを確認してみよう

1 フィードバック情報の取り扱いについて

FURIKA は、アンケートへの皆さんの回答データを集計し、皆さん自身に「フィードバック」として提供します。自分自身が、何を、どのように学んだか、を振り返り、今後の学習に役立ててください。

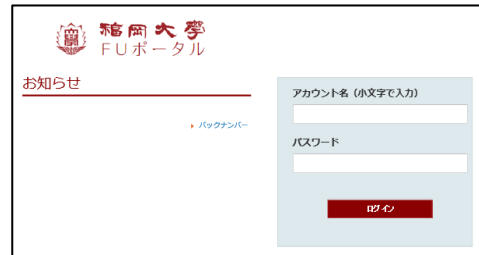
なお、FURIKA のフィードバック情報は、皆さんの個人情報を守った上で提供しています。皆さん個人が特定できないようになっており、担当教員を含む先生方も、皆さんを特定することはできません。

- ◆ FURIKA がフィードバックとして提供するさまざまな情報は、福岡大学が皆さん自身のために提供するものです。複製、配付、インターネット上へのアップロード（SNS を含む）等、学外への公開は、厳に謹んで下さい。学外へのデータの公開は、福岡大学や特定の授業への偏った印象を与えるなど、学友や本学に対する不利益につながる恐れがあります。
- ◆ 福岡大学の学友や教職員、皆さんのご家族にフィードバック情報の表示画面を見せることについては差し支えありません。

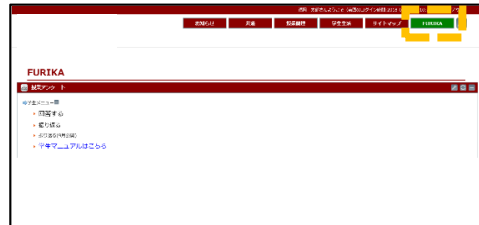
2 フィードバック情報の閲覧方法

- ①福岡大学 FU ポータルにアクセスし、福大 I D（認証基盤）のアカウントでログインしてください。

<http://portal.fukuoka-u.ac.jp>



- ②上部メニュー右端にある緑色のボタン **FURIKA** を選択してください。



- ③FURIKA の学生メニューが表示されますので、「振り返る」を選択してください。



- ④「振り返る」を選択すると、皆さんが受講した科目の一覧が表示されます。

フィードバック情報は、「科目別の情報」「自分の特性」の2つから構成されています。フィードバック情報を閲覧する際は、まず閲覧したい情報（①）及び実施時期（②）を選択してください。

履修科目	成績	教員コメント
表示 科目 A	D	🗨️
表示 科目 B	B	

3 各メニューについて(「科目別の情報」と「自分の特性」)

「科目別の情報」を確認しよう

「科目別の情報」を閲覧する際は、閲覧したい科目の左横の「表示」ボタン(③)をクリックしてください。

「科目別の情報」は、以下の5つのメニューから構成されています。

アンケート内容

アンケートの設問と皆さん自身の回答を表示します。

全体との比較

受講生全体(それぞれの設問の回答平均)と皆さん自身の回答の比較を表示します。

※FURIKAにおける「受講生」とは、受講生のうちアンケートに回答した学生のことを指します。

学んだこと

設問⑤「この授業で特にあなたが学んだことは何でしょうか」に対する皆さん自身の回答および他の受講生の回答を表示します(ただし、担当教員が公開設定を行った回答記述のみ表示します)。

「自分の特性」を確認しよう

「自分の特性」を閲覧する際は、閲覧したい対象科目(「共通教育科目」または「専門科目」)(③)を選択した上で、表示ボタン(④)をクリックしてください。

「自分の特性」は、以下の4つのメニューから構成されています。

ポリシー

皆さんが学んでいる学位(教育)プログラムの「ディプロマ・ポリシー(DP)」を表示します。

※詳細については、p.5「DPって何だろう?」をご参照ください。

全体との比較

同じプログラムを専攻する学生(同学年)との回答結果の比較を表示します。

※活用方法については、p.4「棒グラフをどう見る?」をご参照ください。



③ ※活用方法については p.13 「学んだこと」から学ぶ」をご参照ください。

成績との関係

教員による成績評価(横軸)と各設問項目に対する皆さんの自己評価(縦軸)がどういった関係にあるかを示すT図に、皆さん自身の位置を★で表示します。

※活用方法については、p.12「T図って何だろう?」をご参照ください。

教員コメント

授業の総括や皆さんが回答した「学んだこと」に対する教員からのコメントを表示します。



成績との関係

教員による成績評価(横軸)と各設問項目に対する皆さんの自己評価(縦軸)がどういった関係にあるかを示すT図に、皆さん自身の位置を★で表示します。

※活用方法については、p.12「T図って何だろう?」をご参照ください。

DPへの到達度

DPが示すそれぞれの能力に対する到達度の累積を表示します。

※活用方法については、p.8「DPグラフの読み方」をご参照ください。

第2章 フィードバックを活用してみよう

1 フィードバックが返ってくるよ

F先生：授業アンケート FURIKA について、なんでも説明してくれる先生。「先生のご専門は何ですか？」と質問すると、「ははは、私の専門は FURIKA だよ」と笑う、ちょっと謎めいたところも。シルバーグレイの髪が特徴。

葉菜子：キレイのダンスを踊れる、アクティブなリケジョ（理系女子）。ユニークな着眼点と論理的思考を持つ。



福太郎：生粋の博多っ子。博多弁を駆使して、思ったことははっきり言う率直系男子。

教育サロン（A棟地下1F）でF先生と雑談をしている福太郎と葉菜子。

福太郎：「先生、先生！！ちょっと聞いてもよかですか。去年から始まった FURIKA という授業アンケートなんですけど、今までのアンケートとずいぶん違うみたいですね」

F先生：「そうだね。これまでとは違う、かなり新しいものになったよ」

葉菜子：「ほんとですね、紙から web になったし、成績表みたいな「フィードバック」という情報が見られるようになってるし」

福太郎：「「フィードバック」って、実はちょっとよくわからんっちゃけど、先生、「フィードバック」って、そもそもどういう意味なんですか？」

F先生：「わかりやすく言うと、「フィードバック」というのは、**今回の結果を次回の行動に活かしていくような仕組み、といった感じ**かな。何かをしたら、やりっぱなしで済ますのではなく、行動の結果をよく見て、課題があったら修正して、次に活かしていく。そういうシステムのことだよ」

福太郎：「ぐるぐる回る感じですかね」

F先生：「そうそう。FURIKA では、これまでの授業アンケートとは違って、学期ごとにアンケートの分析結果がフィードバック情報として返ってくる。それを、次の学期以降の学習に活かすことができるようになってるんだ」

葉菜子：「ということは、フィードバック情報を使って今学期の結果を来学期に活かして、来学期の結果を、その次の学期の結果に活かして・・・、それが続く感じですか？」

F先生：「その通り。そうやって、4年間（6年間）をかけて成長できるようになっているんだ」

福太郎：「なるほどですね。イメージは掴めたっちゃけど・・・、でも、次の学期の学習に活かすって、学生たちは FURIKA で具体的に何をしたらよかですかね？」

F先生：「まずはフィードバック情報から自分の学習の傾向や状況をしっかり掴むことだね。今学期、自分が何を、どこまで学べたのか、をしっかりと振り返ることは、たぶん君たちが思っているより、実はずっと大事なことだよ」

福太郎：「う～ん・・・。先生、実はオレ、ちょっと納得できないことがあるったい。“FURIKA”ってネーミングは、「振り返り」と掛かるとるっちゃんね？でも、思うっちゃけど、**振り返ることってそげん大事なことなん？**」



葉菜子：「私もちょっとそれが引っかかっていたのよ。「振り返る」って、なんだかちょっと後ろ向きな気がして。後ろばかり見てるのって、なんだかあんまり若者らしくなくてどうかなあって思うんですけど？」

F先生：「それはいい着眼点だね。日本語で「振り返る」というと、確かにちょっと後ろ向きに感じるものね。でも、FURIKAで言う「振り返り」は、英語の“reflection”に近い意味なんだよ。反射させて、それを見る感じかな。例えて言うと・・・、そうだね、鏡で自分の姿を見るような感じかな。例えば、葉菜子はダンスが得意だったよね？」

葉菜子：「はい。」

F先生：「ダンスの練習をするときって、自分がどんな動きをしているのか、ちゃんと動いているかチェックするのに、鏡や、姿が映るガラスなんかを使って、自分の動作がイメージ通りかどうかチェックするよね？」

葉菜子：「そうです。そうやって、自分の状況を自分でチェックして、イメージ通りでなかったら修正してうまくっていく。その繰り返しですね」

F先生：「それぞれ。それと同じことを、大学4年間（6年間）での学習でも、やってもらいたいんだよ」



葉菜子：「ははあ、そういうことですか。なるほど～」

福太郎：「オレはダンスの練習したことないけんピンとこん部分もあるっちゃけど、だいたいのイメージは分かったばい。」

F先生：「では、さっそく FURIKA で自分の状況を確認してみようか」

2 棒グラフをどう見る？（「自分の特性」-全体との比較）

福太郎・葉菜子：（スマホでFUポータルにアクセスし、FURIKAのフィードバック情報を確認する。）

福太郎：「へえ～、いろんな科目の結果が見られるったい」

葉菜子：「**自分の特性**」という項目もあるのね。私ってどんな特性なのかな」

F先生：「FURIKAでは、それぞれの科目ごとの結果をみることができし、それらを学期ごと、学年ごとに集計してまとめた結果を、「**自分の特性**」として見るができるようになっているんだ」

福太郎：「**自分の特性**」というのは、学期ごとや学年ごとのまとめなんやね。」

葉菜子：「まとめて見ると、個別の科目をひとつひとつ見るよりも「**自分の特性**」がはっきりわかる、ということですね」

F先生：「その通り。じゃあ、まずは「**自分の特性**」から見てみようか」

福太郎・葉菜子：「はい」（二人とも、スマートフォンを操作する。）

F先生：「いろんなメニューがあると思うけれど、まずは今学期の専門科目から確認してみよう。「**全体との比較**」のタブを開いてみて」

福太郎：「おっ、棒グラフが表示されたばい」

F先生：「棒グラフの見方はわかるかな？」

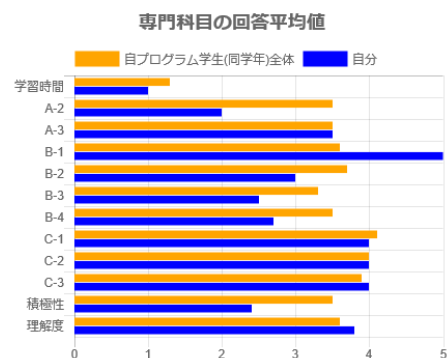
福太郎：「はい。大丈夫です」



葉菜子：「全体との比較」のタブで表示されるこの棒グラフ、自分の回答結果だけではなく、他のみんなの回答も表示されるんですね」

F先生：「そうなんだよ、そこがポイントの一つなんだ。全体と自分を比較して、自分の回答の傾向や、他の学生たちがどんな風に回答したのか、の傾向がわかるようになっているんだ」

葉菜子：「他の学生」って、実際には誰のことなんですか？グラフには、「自プログラム学生（同学年）」ってありますけど・・・」



福太郎：「それもよくわからんけど、他にもわからんところがあるっちゃんね。棒グラフの横にある文字、学習時間とか理解度はわかるんやけど、「A-1」とか「A-2」とかの意味がわからんもん。FURIKAでは、確か学習時間とか理解度の他に、それぞれの授業の到達目標について回答した記憶があるっちゃんけど・・・」

F先生：「よし、二人の質問にまとめて答えよう。ちょっと説明が回り道になるけれど、大事なことからよく聞いてね」



福太郎・葉菜子：「はい」

F先生：「まず、君たちが学部・学科で学んでいる大学4年間（6年間）のカリキュラム全体は、「DP」に沿って設計されているんだ」

福太郎：「DP・・・ってなんですかね？」

3 DPって何だろう？（「自分の特性」-ポリシー）

F先生：「大学4年間（6年間）を終えて卒業すると、みんなには「学士号」という学位が授与されるってことは知っているかな？」

福太郎・葉菜子：「はい」

F先生：「学位のことを英語で“diploma”というんだけど、DPというのは、「ディプロマ・ポリシー」の略語なんだ。「ポリシー」はここでは「方針」といった意味で使われていて、ディプロマ・ポリシーというのは、「学位授与の方針」と訳される。DPとは、どういった能力や資質を身につけた学生に学士号を授与するか、を示すものだと考えるといいよ」

福太郎：「分かったような、分からないような・・・」

F先生：「そうだね、実際にFURIKAで見てみよう。「ポリシー」のタブを開いてごらん」

福太郎：「わっ、なんだか難しい文章がでてきたばい！」

F先生：「福太郎は人文学部文化学科で学んでいるよね。いま表示されているのは、人文学部文化学科のDPなんだよ。文化学科のDPはA-1からC-3まで、全部で10あるね」

文化学 ディプロマ・ポリシー (DP)	
A	【知識・理解】
A-1	人文・社会・自然に関する基礎的な知識を身に付けている。
A-2	文化に関する基礎的なテキストに触れ、文化の多様性と言語表現について理解を持っている。
A-3	人間の思想・行動・社会に関する専門的な知識を持ち、それらについて説明できる。
B	【技能】
B-1	人間の思想・行動・社会に関する文献・資料・データなどを正確に読み解くことができる。
B-2	自分の見解を的確に言語化し、問題解決に向けて、他者と対話できる。
B-3	人間の思想・行動・社会に関する主張を論理的に分析し、その妥当性を評価できる。
B-4	人間の思想・行動・社会に関する事象・出来事について、実証的に分析できる。
C	【態度・志向性】
C-1	文化の多様性に関心を持ち、尊重する志向性を持つ。
C-2	社会的・文化的活動に積極的に関与しようとする意欲を持つ。
C-3	自分の見解や立場を相対化して問い直す姿勢を持つ。



F先生：「哲学、社会学、心理学、人類学などを総合的に学ぶことのできる文化学科らしい DP になっているね。福岡大学の文化学科では、学生たちに4年間でこの DP に書かれているような能力や資質を身につけてもらうことを大きな目標にして教育を行っているんだよ」

福太郎：「し、知らなかった……。ところで先生？「A-1」とか「B-2」とか、アルファベットと数字がついとうけど、これはなんなんですかね？」

F先生：「アルファベットは、それぞれの DP の領域を意味しているんだ。Aは「知識・理解」の領域、Bは「技能」の領域、Cは「態度・志向性」の領域。数字は、それぞれの DP の番号のようなものさ。あくまで目安だけれど、数字の小さい方がより基本的で、大きい方が応用的な能力になっていることが多いようだね」

葉菜子：「「知識・理解」というのは、何かを知っているかどうか、理解しているかどうかってことよね。「技能」は、スキルみたいなものでしょう？それは分かるんですが、「態度・志向性」ってどういうものかよく分からないんですけど……。『態度』は分かるんです。でも『志向性』って何でしょう……？」

F先生：「『志向性』というのは、そうだなあ、どっちの方向を向いているか、どういうことを目指して動いているか、というイメージで考えてみると理解しやすいんじゃないかな」

葉菜子：「なるほどですね。態度よりも、志向性の方がもっと目的を持っているようなイメージですね」

F先生：「そうそう、そんな感じ。大学としては、君たちにただ知識やスキルを身につけてもらうだけではなく、人間的な姿勢や方向性についても、『こうなってほしい』というビジョンがあるということなんだ」

葉菜子：「へえ～、なんだか意外です。大学って、もっと自由で、なんというか、『どう過ごすのも君たちの責任だよ』みたいな、放任主義のような印象を持っていました。そうでもないんですね。ちょっと不思議」



F先生：「そうだね、確かに大学は学生をできるだけ大人として扱う場所だから、そういう印象があっても不思議ではないよ。でもね、自覚はあまりないかも知れないけれど、これからの社会を作り、支えていくのは、君たち若者なんだ。そういう若者に、どう成長してもらいたいのか、どういう人間になってもらいたいのか、というビジョンを大学がしっかり持って、それを君たちに示しているということは、私はとても大きなことだと思うよ」

福太郎：「自分たちがこれからの社会を作るとか、支えるとか、ちょっと実感沸かんっちゃけど……」

F先生：「まあ、確かにまだちょっと実感がわかないかも知れないね。でも、福岡大学は全国で800近くある大学のうち、学生数はだいたい上位20位くらいに入っている。全国でもトップレベルに大きな大学なんだよ。そして、福岡大学がそれだけ大きいということは、社会的な影響力も、そして責任も、トップレベルに大きいということなんだ。君たちが福岡大学でどう成長するかは、思っている以上に大事なことなんだよ」

福太郎：「え？福大ってそんなに大きい大学やったんや！」

葉菜子：「私も知らなかった。別に私が偉いわけじゃないけど、なんだかちょっとうれしいわね(笑)」



F先生：「でも、繰り返すけど、大きい分、責任も大きいんだからね。君たちにはしっかり学んでもらわなくちゃ」

福太郎：「自信ないけど……。分かりました(と言っところ……。苦笑)。」

F先生：「さて、話を戻すけど、君たちが学部・学科で学んでいる大学4年間(6年間)のカリキュラム全体は、『DP』に沿って設計されているって、私がさっき言ったのを覚えているかな。実はね、みんなが履修する科目は、

その DP が述べているような能力を身につけるために配置されているんだ」

福太郎：「ん？ どういうことですか？」

F 先生：「例えば文化学科だったら、専門科目の「基礎演習」は、DP の「B-1」の能力を伸ばすために配置されている。「社会行動論」は DP の「A-3」と「B-4」の能力を伸ばすために配置されているよ。その他の科目も、みんなそんな風に DP に関連付けられているんだ。」

葉菜子：「へえ～、そうなんですね。私が学んでいる工学部の社会デザイン工学科もそうなんですか？」

F 先生：「そうだよ。社会デザイン工学科には社会デザイン工学の DP があって、それぞれの科目は DP が述べているような能力を身につけるためにおかれているんだ。「ポリシー」のタブを開くと確認できるよ」

葉菜子：「ほんとだ・・・。」

F 先生：「ちなみに、DP に沿って設計されたカリキュラム全体を、「学位（教育）プログラム」と呼ぶんだ。葉菜子が学んでいるのは「社会デザイン」という学位（教育）プログラム、ということになるね。それから、科目と DP の関わりは、「カリキュラムマップ」で分かるようになっている。FU ポータルからカリキュラムマップを見ることができるので、自分の学ぶカリキュラムと DP の関係を確認することもできるよ」

福太郎：「カリキュラムマップ・・・？」

F 先生：「どの科目がどの DP に対応しているか、を示す地図のようなもの、と言えはいいかな。ただ、マップと言っても科目名が並んでいるだけなので、学生の君たちが見てもたぶんあまり楽しくはないかも知れないな」

葉菜子：（スマホで FU ポータルにアクセスし、カリキュラムマップを見る）「確かに、先生の言うとおり、すごく楽しいってほどではないかも（笑）」



F 先生：「はは。とにかく大事なのは、君たちが受講した科目は、どれも DP が述べている知識・理解、技能、態度・志向性のどれかを身につけるために配置されている、ということなんだ」

葉菜子：「DP は科目と対応している、ということですね？」

F 先生：「その通り。でも、もう少し細かく言うと、正確には DP はそれぞれの科目の到達目標と対応しているんだ」

葉菜子：「到達目標？ 授業のシラバスに載っているあの到達目標ですか？」

F 先生：「そう。君たちが、FURIKA で授業アンケートに回答した時、「あなたはこの授業をうけて、各到達目標にどの程度到達できたと思いますか？」という設問があったのを覚えているかな？」

福太郎・葉菜子：「はい」

F 先生：「到達目標は、授業によって設定されている数が違って、だいたい 3 つ前後から 7 つ前後が多いようなんだけど、それらは原則として、DP に対応しているんだよ。「全体との比較」にでてくる「A-1」とか「A-2」の棒グラフは、君たちが今期受講した授業の到達目標のうち、「A-1」とか「A-2」に対応する到達目標についての回答の集計結果を示しているんだ」

福太郎：「「A-1」とか「A-2」の棒グラフの意味って、そういうことやったんや」

F 先生：「その通り。そして、オレンジ色の「自プログラム学生（同学年次）」は、同じ DP の達成に向けて学んでいる、君たちと同じ学科の学生たちという訳さ。同じ学科の学生たちの回答平均が、オレンジ色の棒グラフで示さ

れているよ」

葉菜子：「みんなと比べてみると、自分の特徴が見えてきますね」

F先生：「そういうこと。それからね、**FURIKA**のフィードバックでは、**DP**の能力のうち、どれがどれくらい身についたか、の概略も分かるようになってるよ。それを確認すると、自分の強みとか、弱みとか、何をどこまで学んだか、とか、そういった自分の特徴をさらに踏み込んで把握できるようになっているんだ」

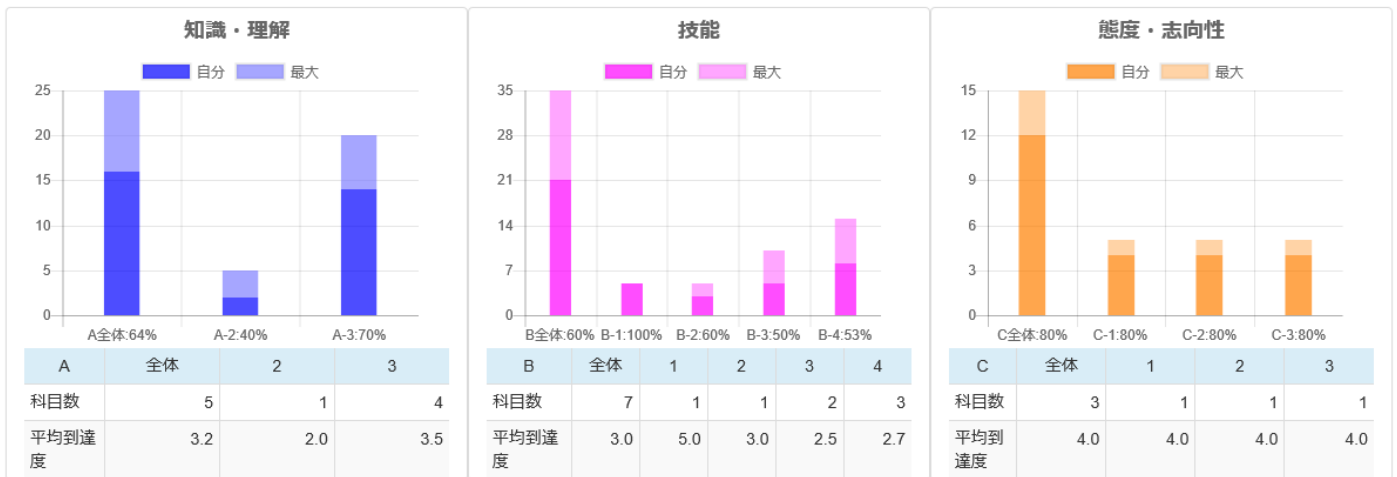
福太郎：「え？そんなことまで分かるとかすごかー！」

F先生：「**「DPへの到達度」**のタブを開いてみてごらん。さっきとはちょっと違う棒グラフがでてくるだろう？」

福太郎：「さっきの棒グラフは横向きやったけど、今度のグラフは縦なんやね。それに、なんか色が薄い部分と濃い部分があるやん」

F先生：「**FURIKA**では、このグラフを**「DPグラフ」**って言うんだ」

4 DPグラフの読み方（「自分の特性」-DPへの到達度）



F先生：「**DPグラフ**は、ちょっと特殊なグラフなので読み方を知っておく必要があるんだ。薄い棒と濃い棒は、**DP**が示す能力に関する科目を自分がどれくらい受講したのか、そして、**DP**が示す能力をどれくらい身につけたか、を示しているよ」

福太郎：「ええっと・・・、どうやって読めばいいんですかね？」

F先生：「まず、棒の下に番号があるよね。これは、**DP**の番号なんだ。そして薄い棒は、**DP**が示す能力に関する科目を自分がどれくらい受講したのか、を示している。たとえば福太郎の**DPグラフ**を見ると、どれどれ・・・、ほほう・・・」



福太郎：「先生、にやにやしなないで下さいよ」

F先生：「ごめんごめん。興味深いと思っただけで、笑ったわけじゃないんだよ。ええとね、たとえばAを見てみようか。福太郎は「A-1」に関する専門科目は受講してなくて、「A-2」に関する科目を1科目受講していて、「A-3」に関する科目を4科目受講している。だから、A全体ではトータルで5科目受講している、ということになるね」

福太郎：「グラフの下に、文字でそう書いてありますね」

F先生：「**DPグラフ**のこの薄い棒の部分は、その**DP**に関連する科目を受講すればするほど長くなるんだ。そして、その**DP**が示す能力のうち、どの程度身につけているか、を濃い棒が表している」

福太郎 : 「オレの受講科目は「B-1」と「B-2」は同じやけど、到達度は、「B-1」の方が「B-2」より高いですね」

F先生 : 「そうだね。だから、B「技能」の領域に関しては、福太郎は「B-1」の分野が得意だ、ということが分かるね」

福太郎 : 「へえ、なるほど。」

F先生 : 「そうやって、自分の強みや弱みを把握して、次学期以降の学習に活かしてほしいんだ。それから、たとえば受講している科目が少ない **DP** があったら、そこはあまり学べていない、ということだから、カリキュラムマップを確認するなどして、次学期以降にその **DP** に関する科目を重点的に学ぶ、というのもいいだろう」



葉菜子 : 「あの、福太郎と私の **DP グラフ** には「A-1」が一つもないんですけど、これは後期と来年度とかに「A-1」に関する科目をもっととった方がいい、ということなんですか？」

F先生 : 「実は、「A-1」はちょっと特殊なんだ。いま君たちが見ている「自分の特性」は専門科目を集計したもので、共通教育科目は、それとは別の「共通教育科目」の集計でカウントされるんだ。そして、多くの学位（教育）プログラムの **DP** は、「A-1」を共通教育科目で身につける能力として位置づけているので、専門科目の **DP グラフ** には「A-1」は入ってこないんだ」

葉菜子 : 「そうなんですかね」

F先生 : 「そう。そして、ちょっと話が複雑になっちゃうけど、共通教育科目の **DP グラフ** は、「知識・理解 (A 全体)」、「技能 (B 全体)」、「態度・志向性 (C 全体)」の三つしか集計していないんだ。まあ、専門科目の「A-1」の部分については、共通教育の「知識・理解」の部分の **DP グラフ** がしっかり表示されていれば、あまり心配することはないよ」

福太郎 : 「(「自分の特性」の共通教育の **DP グラフ** を確認してみる。)」「あ、ちゃんと「知識・理解」の **DP グラフ** が表示されとるばい。濃い棒の部分もそれなりにあるけん、しっかり到達できとるってことやん」

F先生 : 「それなら大丈夫」

葉菜子 : 「私も大丈夫みたい。ほっとしました・・・。ところで先生？ FURIKA で自分が何をどこまで身につけたか分かるなんて、なんだかすごいですけど、この **DP グラフ** はどういう仕組みで作られているんですか？」

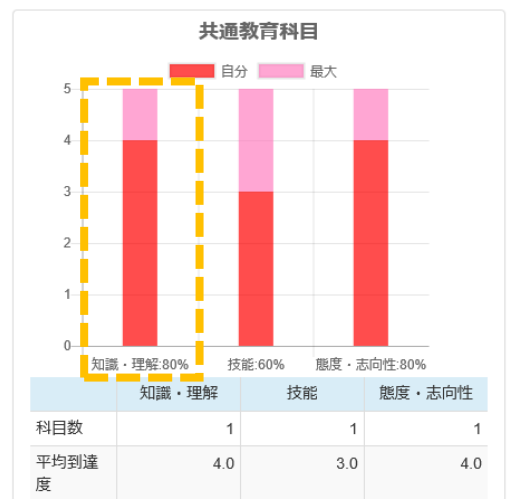
F先生 : 「基本的には、それぞれの授業の到達目標ひとつひとつについて、自分がどの程度到達したか、という問いに対しての君たちの回答を、その到達目標が関わっている **DP** と関連付けて集計しているんだ」

福太郎 : 「(え、意味わからん・・・) どういうことですか？」

葉菜子 : 「私、ちょっと分かるかも。つまり、授業の到達目標への回答を足し合わせて、その到達目標が関わる **DP** の数値を作ってる、ということですよ？」

F先生 : 「その通り。個別のものを足し合わせて全体を作る仕組みのことをよく「**ボトムアップ**」と言うんだけど、**DP グラフ** はそのボトムアップで作っているんだよ」

福太郎 : 「う～ん、でもちょっと待って。確かにオレたちはそれぞれの授業でアンケートに答えただけど、それはあくまで「自分がどの程度到達したと思うか」っていう自己診断に過ぎんやん？」





葉菜子：「どうのこと？」

福太郎：「いや、例えば「～が説明できる」とか、「～について理解できる」とか、そういった授業の到達目標に対して、「**実際にできるようになった**」、っていうこととき、「**できるようになったと自分で思っているだけ**」っていうのは、かなり違うものなんやない？」

F先生：「とてもいいところに気がついたね。その通りだよ。だから、**DPグラフ**が示しているのは、正確には「**DPの能力のうち、どれがどれくらい身についたか**」というよりは、「**どれがどれくらい身についたと君たち自身が判断しているか**」といった方がいいかも知れないね」

葉菜子：「自己診断って、ちゃんとした評価に比べるとなんだかかなりいい加減な気がするなあ」

F先生：「いやいや、自己診断だからと言っていい加減だというわけではないよ。むしろ、君たちにはできるだけ適切に自己診断をしてもらいたいし、そういう自己診断の能力も、しっかり身につけていって欲しいんだよ」

福太郎：「ええ～、そんなん言われても、**自己診断なんて難しいですよ**。よく分からんけん、どうしても適当になるやろうし。それに、へたに自分を高く評価するのも気恥ずかしいけん、まあ、低めに評価しておくのが無難だと思ってちゃいます」

F先生：「そうだね、じゃあ次に**自己評価について説明しようか**。適当に評価するのはまずいし、気恥ずかしいからって自分を低く評価するのも、実はよいとは言えないんだよ。謙虚は美德ってよく言われるけど、**大人は謙虚だけじゃ成長できないんだ**」

葉菜子：「え？ 謙虚な自己評価はいけないんですか？」

F先生：「もちろん、謙虚さが必要な場合もあるよ。でも、FURIKAでは謙虚さよりも、できるだけ適切に自己評価しようとする姿勢を大事にしてもらいたいんだ」



5 自己評価はしっかりと！

福太郎：「それはどうしてなんですか？」

F先生：「ダンスの例でもう一度考えてみようか。ダンスのコーチって、教え子にどんな風に指導してくれるの？」

葉菜子：「うちのサークルにはコーチがいなくて、主に先輩が教えてくれるんですけど、それでもいいですか？」

F先生：「構わないよ。先輩は、君にどんな風に教えてくれるかな？」

葉菜子：「そうですねえ・・・例えばうまくできるところはすっごく褒めてくれるし、動きがいまいちなところは、もっとこうしたら、とか、もっと～～しないとね、とか、アドバイスしてくれますね」

F先生：「そうそう。そうだよ。できているところはできているとしっかり伝えてくれるし、できていない部分はどうすればいいか教えてくれる。そして、**コーチが厳しすぎたり、適切に評価してくれなかったりすれば、教えられる方としてはきつとなかなか伸びないし、多分やる気もでない**」

葉菜子：「そうですね」

F先生：「そこで考えてみて欲しいんだけど、もしコーチがいなくて、自分が自分自身をコーチしなければならなかったとしたらどうだろう？」



福太郎：「え？ どういうことですか？」

F先生：「子どもの頃を思い出して欲しいんだけど、普通、子どもに対しては、大人たちがよく見ていろいろ教えてくれるよね。だから子どもは、自分が何がどこまでできているか、周りの大人たちからコーチみたいに教え導いてもらえることも多い。でも、大人になると、そんな風に他人がいつも自分の状態を教えて導いてくれるとは限らないんだ」

福太郎：「ん～・・・大人って孤独やん」

F先生：「そうそう。大人は大変なんだよ（笑）。だから、大人になってもちゃんと成長し続けることは、とても難しいんだ。自分が今、何がどこまでできるようになっているのか、しっかり把握できる能力を今のうちに身につけておくことは、とても重要なことなんだよ」

葉菜子：「ははあ～ん、わかってきました。つまり先生は、**大人が成長するには、自分が自分のコーチにならないといけない**っておっしゃりたいんですね。そして、**自分が自分をコーチするには、しっかり自分の評価ができなければいけない**ってことですね」



F先生：「その通り。だからね、大人が成長していくためには、自己評価の能力が重要なんだよ。そして、君たちはこれから一人前の大人になっていく。そういう君たちにとって、自己評価の能力を身につけていくことは大きな意味を持つんだよ」

福太郎：「なるほどですね」

葉菜子：「大人にはコーチはいないんですね」

F先生：「まあ、「絶対いない」という訳じゃないけどね（苦笑）。でも、一人でも成長していけるようにするには、自分が自分のコーチにならなくちゃいけないことも多いんだよ。コーチって、教え子のできているところを褒めて伸ばしたり、できていない部分を指摘して、どうすればいいか教えてくれるものだろう？ それを、大人は自分に対して行わなくちゃいけないってことさ」

福太郎：「よく分かりました」

F先生：「さて、なんで私たちは自己評価の話をしてきたのか、覚えているかい？」

福太郎：「ええっと、FURIKA では授業の到達度を自己評価する、っていう話やったっけ？」

F先生：「その通り。そして、いま話してきたような理由から、君たちにはできるだけ適切に自分の学習を自己評価してほしいんだよ。適当でいい加減な評価はもちろんまずいし、謙虚すぎるのもよくない、というのも、わかってくれたかな？ できている部分はしっかりできている、と自信を持って判断することが、次に進んで行くために大事なことなんだ」

福太郎：「わかりました。でも、自己評価が適切かどうかって、どうやったらわかるんやろ。FURIKA では、それがわかるようになってるとですか？」

F先生：「FURIKA には、「**T図**」というグラフがあるんだ。自己評価が適切かどうか、自分の自己評価がどの程度信頼できるものになっているかは、この**T図**を見て判断していくことになるよ」

福太郎：「T図？」

6 T 図って何だろう？（「科目別の情報」「自分の特徴」-成績との関係）

F 先生：「そうだね。実際に T 図を見ながら確認してみようか。これは「自分の特性」ではなくて、個別の科目の方がわかりやすいから、どの科目でもいいので一つ開いてみてくれるかな」

福太郎：「メニューに戻って、「科目別の情報」を選んで、科目を選んで・・・」（スマホを操作して科目別の情報をひらく。）

F 先生：「科目別の情報を開くと、「成績との関係」というタブがあるだろう？それを開くと、T 図がでてくるんだ」

福太郎：（FURIKA で T 図を確認する。）「あ、でてきた。T 図って、このマス目に色がついた図のことですよ？」

葉菜子：「日曜日のお昼に、なんだかこんな感じの図がでてくるクイズ番組を見たことがありますよ。確か・・・アタック・・・なんだっけ？」

F 先生：「いやいや、クイズ番組とはちょっと違うよ（笑）。この T 図はね、君たちの学習の到達度（Toutatsu-do）を主に示すことから「T 図」と名付けられているんだけど、このグラフの読み方が分かると、ここからいろんな事が見えてくるよ」

福太郎：「目がチカチカするんやけど・・・」

F 先生：「ちょっと我慢して、よく見てみようよ。T 図はね、基本的には縦軸と横軸の関係を示すものなんだ。たとえばこの T 図は、この科目の受講生の理解度（縦軸）と成績（横軸）の関係を示しているんだけど、マス目の色が濃くなればなるほど、そこにたくさんの人が分布しているんだ。そして、★のあるマスには、福太郎自身がいるよ。福太郎は、この授業で成績「優」をとって、この授業の理解度に「3」と回答しているね」

福太郎：「はい」



F 先生：「斜めの赤線は、実際の成績評価と主観的な自己評価の関係を示している。おおよそ、赤い線より左上なら自己評価が高め、右下なら自己評価が低め、と考えていい。福太郎は、ちょっと実際の成績評価より、自己評価を低めにしているということだね」

福太郎：「なるほど、そういうことなんや」

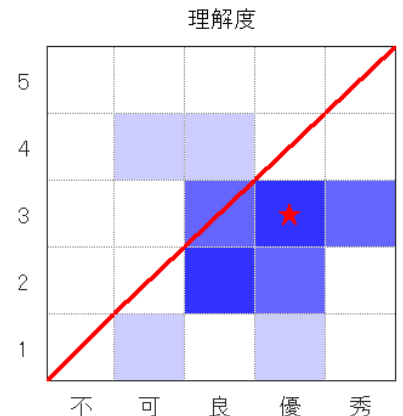
F 先生：「それから、君以外のこの科目の受講生全体の成績と自己評価の分布を見ると、全体的にみんなよい成績を取っていて、自己評価は厳しめに行っていることが分かるね。だから、福太郎の自己評価も、他のみんなと傾向は同じということが分かる」

葉菜子：「福太郎だけが厳しめに自己評価したわけじゃないって事ですね」

F 先生：「そういうことだね。この傾向は科目ごとに違うから、すべての科目でちゃんと確認してみるといいよ。そして、今学期に受講した科目全体（専門科目または共通教育科目）の傾向は、「自分の特性」でまとめて見ることができるからね」

福太郎：「見方がわかれば、T 図ってばり便利やん！自分の成績が他のみんなと比べてどうやったのかも分かるし、自分の自己評価が適切やったかどうか分かるわけですね」

F 先生：「そういうことさ。だから、T 図で自分の自己評価を確認して、それが成績評価と比べてどれくらい合っているかが分かれば、DP グラフでの自己評価の積み上げも、どれくらい実際と合っているかが分かるはずだよ」



葉菜子：「なるほど～。自己評価も、**T 図**と合わせて見ることで、**ただの自分本位の評価なのか、それともしっかり根拠のある自己評価なのかが分かってくる**ってことですね」



F 先生：「その通り。だからこそ、これから君たちはいろんな授業において FURIKA にしっかり回答することで、自己評価の経験を積んで、きちんと自己評価できる能力も磨いていってほしいんだ」



福太郎：「う～む、そうやって、大人として自分で成長できる人間になっていくんや」

F 先生：「そこまで分かってくれば、先生もううれしいよ。後はもう何も言うことはない・・・、といたいところだけど（笑）でもまだ説明の続きがあるんだ」

福太郎：「え～、まだあるんですか？」

F 先生：「そう言わずに、あと少し聞いてくれたまえよ。**T 図**の見方なんだけどね、**T 図**は自分の自己評価の適切さの確認に使えるだけでなく、**その授業でより高い学習成果を上げるためには何が必要だったか、**を読み取るためにも使うことができるんだ」

葉菜子：「どういうことですか？」

F 先生：「**T 図**をよく見ると、高い成績をとった学生が、どれくらいの時間学習していたのか、とか、どれくらい出席していたのか、とか、そういうことも分かるようになっていっているんだよ」

福太郎：「はい・・・。確かにそうですね」

葉菜子：「つまり、**高い成績をとった学生たちが、たとえば積極性の項目が高かったとしたら、自分ももっと積極的に授業に参加する姿勢を持っていれば、もっと高い成績がとれたかも・・・、**とか、そういうことですか？」



F 先生：「まさにそういうことさ。もちろん、大学で学ぶ意味や目的は、高い成績を取ることだけにあるわけではないし、成績はあくまで目安に過ぎない。成績だけに振り回されて、他のものが見えなくなったらそれはちよっともったいないことだね。ただそれでも、「成績」というものが、学んだことがしっかり身についたかどうかを示す指標のひとつであることには間違いない」

福太郎：「そげんですね」

F 先生：「だから成績が、「その授業でどれだけ学べたか」を示すものの一つだとすれば、成績をよく見ることでいろいろなことが見えてくるよ。実際、成績につながる要素はたくさんある。出席、学習時間、前向きに参加すること・・・。それらについて、自分がどうだったか、もしあまりよい成績でなかったとしたら、どこを頑張ればよかったのか、**T 図**はそれを推測する手がかりにもなるんだよ」

福太郎：「**T 図**をよく見て、**自分の授業の受け方を振り返る、**ということやんね！」

F 先生：「そうそう。そういうことさ」

7 「学んだこと」から学ぶ（「科目別の情報」-学んだこと）

F 先生：「ところで、いま福太郎が言った「**授業の受け方を振り返る**」という点では、「**学んだこと**」のタブからもいろいろなことが分かるんだ。ちょっと確認してみよう」

福太郎・葉菜子：（「学んだこと」のタブを開く）

福太郎：「へえ～～、面白い。みんなの自由記述が読めるったい」

F先生：「これは、FURIKA の設問 5「あなたがこの授業で特に学んだことは何ですか」への回答なので、完全に自由に何でも書いてよい自由記述じゃないんだけどね」

葉菜子：「じゃあ、「記述回答」という感じがしらね」

F先生：「そんな感じかな。このタブでは、みんなの記述回答のうち、担当の先生が特に受講生の参考になる、と判断したものが公開されているんだ」

福太郎：「え？全員分の記述回答が読めるわけではないんですか？」

F先生：「まあね、教員目線から言うと、同じような内容の記述は結構あるので、それを全員分見せても内容がかぶってしまうから、ピックアップした方がすっきりするんだよ。ただ、全員分を見せたい、という先生もおられるかもしれないよ。そういう先生が担当された科目を受講すれば、全部読めるかも知れないね」

葉菜子：「そのあたりは、担当の先生次第ということですね？」

F先生：「そういうことだね。ところで二人は、記述回答をざっと読んでみて、どんな風に感じる？」

福太郎：「そうですね、えっと・・・同じ授業を受けていても、見方や感じ方は違うんだなあ、と思いました」

葉菜子：「私も。一つの同じ授業から、みんな私とは違ういろんなものを吸収しているんだなあって」



F先生：「そうだね。それを感じてもらえたら担当の先生もうれしいだろうと思うよ。私もそうだけど、先生たちはきっと、授業 15 回を通じていろんなことを君たちに伝えたいし、知ってもらいたいと思って教壇に立っているはず。授業は、そういう先生たちの知識と願いが凝縮されて作られているんだよ」

福太郎：「そういえば、この間、授業ではじめてみんなの前でプレゼンしたんやけど、10 分だけのプレゼンでも、準備するのはばり大変やった。授業は 90 分を 15 回もせないかんし、ばりばりしんどいっちゃろうなって思います」

葉菜子：「授業ができる背景には、きっと膨大な知識と作業が必要なんでしょうね」

F先生：「そうだよ。だから、言ってみれば授業は宝の山のようなものなんだよ。そこから学べることは、きっとたくさんあるはず。授業を受けていたときは気づかなかったことでも、こうやって、他の学生の声を介して、あらためて気づくこと、あらためて学べることは、きっとたくさんあるんじゃないかな」

葉菜子：「そうですね」

福太郎：「自分にとっては正直ちょっとつまらんやった、と感じた授業でも、そこからいろんなことを学べたり、感動したりしている学生もいるんやな、って、ちょっとびっくりです」

F先生：「一つのものについてもいろんな見方がある、というのはそういうことなのさ。自分がその授業からあまり学べなかったとしても、授業を受ける自分の姿勢の方を変えれば、もっといろいろなことを吸収できたかも知れない。同じ授業を受けた他の受講生たちがそこから何を見て、何を学んだか、を通じて、あらためてその授業を振り返って見ると、いろいろなことが見えてくるんじゃないかな」

福太郎：「そうかもですね」

葉菜子：「みんなの記述を見ると、自分に何が見えていなかったのか、も見えてくる気がしますね」

F先生：「自分に何が見えていて、何を見落としていたか、自分の視点を客観視できるようになれば、それはきっと視野を広げる大きなきっかけになるはずだよ。福大にはいろんな学生たちがいる。彼らの視点や声から、いろいろなことを学んでほしいな。担当の先生からだけではなく、同じ授業を受けた受講生や、同じ学科の学友たちの学びの足跡から、さらにいろいろな刺激を受け、いろいろなことを吸収できるのは、個性豊かなたくさんの学生たちがいる福岡大学ならではの学びの醍醐味だよ。FURIKAを通じて、そういう学びの楽しさも味わってもらえたら先生はうれしいな」

福太郎：「FURIKAで振り返ることで、学期が終わったあとでも、その授業について発見したり、学んだりできるということったい。なんか、同じ授業が二度おいしいような感じじゃん（笑）」

葉菜子：「ほんとね。私も、もう一度FURIKAでいろんな授業を見直してみようっと。あ、そうだ、先生？FURIKAで何か分からないことがあったら、また質問してもいいですか？」

F先生：「もちろんだよ。何か分からなかったらいつでもおいで。A棟地下1Fの教育開発支援機構に来るといいよ。メールだったら、furika@ml.fukuoka-u.ac.jpに質問のメールを送ってごらん。気軽な質問でも、回答するよ。それでは、またね」

福太郎・葉菜子：「先生、今日は本当にありがとうございました」



FURIKA に関するお問い合わせ先

教育開発支援機構事務課（A棟地下1階）

E-mail : furika@ml.fukuoka-u.ac.jp